

北海道支部 令和元年度第1回都市地域セミナーの開催報告

—空き家のリノベーションで地域を活性化

山下 昌彦 日本都市計画学会北海道支部 幹事

1. はじめに

日本都市計画学会北海道支部では、令和元年10月24日(木)に第1回の都市地域セミナーとして、「空き家のリノベーションで地域を活性化」をテーマに取り上げ開催しましたので、その概要を報告します。

参加者は88名(パネリスト含む)で、各パネリストの取り組み報告のあと、パネリストによる対談、参加者も交えた意見交換を行い、理解や議論を深めました。

2. 報告1 「都市の活性化に向けた動きについて」

北海道支部副支部長 木本 晃氏より、人口減少の中都市のコンパクト化の実現が難しい一方で、官に依らない取り組みとして「面白い人が『集まる場所』」のような仕掛けをつくり、都市に住み続けるための取り組みの一つであるゲストハウス等の動向について紹介いただきました。

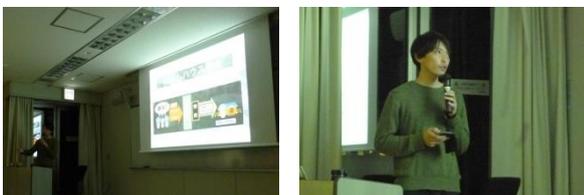
3. 報告2 「街のストックをエリアの価値に変える」

commons fun 代表 林 匡宏氏より、現在開業している江別市商店街の空き店舗をリノベーションしたゲストハウス、空き地・公園・河川など公的空間での集まる場づくりを通じて、林氏独自の話し合いのアイデアをその場で空間イメージに描き起こす手法や、地域や行政を巻き込む共創の場づくりについて紹介いただきました。



4. 報告3 「ゲストハウス×地域の可能性」

合同会社 Staylink 柴田 涼平氏より、札幌市や小樽市で経営するコンセプトの違う6つの宿泊施設の紹介、ゲストハウスを利用した学童保育の展開(子供達が世界の人と交流できる)、不登校生への居場所づくりプロジェクト、また人とまちの出会いを生み出すイベント「移住ドラフト会議」「ゲストハウスサミット」などについて紹介いただきました。



5. 対談 「空き家のリノベーション、ゲストハウス、その先にあるものは」

報告いただいた3名に、北海道支部幹事の窪田 映子氏を加え、対談を行いました。

林さん、柴田さんのお二人は一見違った考え方で活動に取り組んでいるように見えてましたが、共通して重視しているのは想いや熱量を持った人を探すこと、そしてその人を巻き込むことでした。特に人口減少が進み人の出会い・繋がりが限られる地方都市では、地域の実情を丁寧にヒアリング・マーケティングすることが重要と言います。

そしてもう一つ分かったのは、始めから面白い人、熱量・元気のある人でなくても、ゲストハウスには訪れる人の生き方に触れその人を元気にし、成長させる力もあるのでは、ということです。地方は人材不足と思われがちですが、地域に合った「何かやるための場」を作り、地域の人を持つ潜在的なアイデア・熱意を試す場のコーディネーションが求められていることが確認できました。

6. おわりに

当日は札幌市内のみならず、札幌近郊、空知、胆振、宗谷、上川、日高など道内各地から、また都市計画に限らず地域を元気にしたい様々な分野の方々の参加をいただきました。

今回は空き家のリノベーションによるゲストハウスを軸に、集まる場、人を元気にする場を生み出すまちづくりへの熱量を間近に感じ取れた大変有意義なセミナーでした。パネリストをはじめご参加の皆様にも厚く御礼申し上げます。

対談のようす

